

ハイデルベルク信仰問答より

問12

それ以来、神の正しい裁きによって、私たちはこの世の罰と永遠の罰を受けなければならないので、どうして、この刑罰からのがれ、再び恵みに至り、神と和らぐことができるでしょうか。

答え

神はご自分の義が満たされることを望んでおります(出23:7)。それゆえ、私たち自身によるか、他人によって、神の義に対して完全に償わねばならないのであります。

ハイデルベルク信仰問答は、ここから「第二部」に入ります。第二部のテーマは「人間の救い」であり、いよいよ「イエス・キリストにある神の恵み」が語られていく楽しみな部分と言えます。読者が聞きたいのは「救い」であって、メッセージが「審き」で終わってしまうことを望んではいないはずです。

ここまでは、「人間の罪」の現実と、聖であり義であるがゆえに罪を見過ごすことができない神の「審き」について語られてきました。問12で特徴となる言葉は「罰」「刑罰」でしょう。私たちが生きる現実にも「罰則(ペナルティ)」というものが存在しますので、身近なことで考えてみれば分かりやすくなります。

牧師でも日常生活の中で警察のお世話になることがあります。それは、自動車の運転中に違反をして減点・罰金を課せられるような珍しくもない話です。ある日、以前に普通に右折していた場所で右折をしたら、パトカーが待ち受けていたことがありました。「ちょっとちょっと、ここは右折禁止ですよ」「え？今までそんな標識はありませんでしたよ」「よく見てください。あそこにちゃんと付いてますよね？」「知りませんでした。いつ付いたんですか？」「3ヶ月ほど前です」。こんな悔しいやり取りをしたことがあります。知らなかったからといって減点と罰金を逃れられるわけではなく、規則違反をしている事実ゆえにきっちり償わなければなりません。

人間は「神の法」の前に立たされるとき、神に対してあまりに多くの罪を犯している現実が示され、それらに対する容赦なき償いが求められるというのです。気持ちの良い話ではありませんが、これは金銭的な負債を支払うことと似ています。その債務証書が多すぎて、私たちに払いきえることは到底できないのです。問12には「この世の罰」「永遠の罰」という2つの表現が出てきます。念のため整理しておきましょう。

①この世の罰

これは地上で行なった過ちに対する報い、自分が蒔いた種の刈取りのことでしょう。例えば、誰かの信頼を失うようなことをしてしまうと、大切な人間関係を失ったり、評判が悪くなったりということがあります。暴飲暴食によって健康を損なうこともあります。災いが降

りかかると、悲しみながらもそれらと付き合いがなくなるとはなりません。地上での「刈取り」は実に多くありますが、誰も思い当たることあるのではないのでしょうか。そして、「この世の罰」の最終的な姿は肉体的に死ぬことであり、これは罪ある人間が最終的に神に対して支払わなければならない「罪の償い」だと言われます。

そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、--それというのも全人類が罪を犯したからです。(ローマ5:12)

②永遠の罰

これは、地上での最終的な「罪の償い」である「肉体の死」が、それで終わりではなく永遠に続くということでしょう(聖書では「第二の死」と呼ばれている)。罪人は死んでもなお神の罰から逃れることができないということです。

では、神はこれらの罰を人間に課することを望んでおられるのでしょうか。人間一人ひとりに徹底的に「返済」をお求めになるのでしょうか。いいえ、神は私たちにはそれができないことをご存じであり、「他人によって」(別の誰かによって)代わりに支払いをなされたのです。それが、無限の価値を持つ御子イエスのいのちです。主イエスのいのちは、神に対してもはやそれ以外のものが必要ではない十分な償いをもたらしたので、神はご自身の義が満たされ満足を得られたのです。よって、この救い主イエスを信じた人は、もう自分の「債務証書」を探しても見つけることができません。地上の生涯を終え、最後の審判の日に神の前に震えながら立たされるとき、「あれ?無罪と宣言されてしまったぞ」と拍子抜けすることになるでしょう。一体誰が私の負債を償ってくれたのだろう。そのとき、私たちは隣に立ってくださっている主イエスを見出すこととなります。そして、自分が主イエスの血で洗われた「義の衣」を着ていることを知るのである。

最後に、今日の間答のポイントではありませんが、主イエスの救いにあずかった人は、地上で失ったものを取り戻していく経験をするようになります。壊れたものが一つひとつ修復されていくのを見る幸いな人生を歩み始めるのです。